

平成9年（1997年）11月1日発行

座標

今なぜ感性と工学なのか？ 発想と創造力の原点を再考

教務部長——廣瀬 治男教授



廣瀬 治男教授

左の囲み記事で、案内のように、学校法人・日本工業大学では、学園創立九十周年を記念して、国際シンポジウムを執り行う。そこで、本会の事業委員長である教務部長の廣瀬治男教授に、「感性と工学」なるテーマを取り上げる意味を問うて頂いた。なお本シンポジウムの開催に当たり、学園では技術教育国際フォーラム協議会を設置して主催母体としているが、この協議会では、今後一回程度の技術教育フォーラムを来学される諸外国の科学技術者と意見交換するなどの活動を行っていく。

今なぜ感性と工学なのか。フォーラムに賛同し参加を表明された方々は、いずれも著名人であるがそのお考えはフォーラムの席上何うとして、テーマ「感性と工学」について述べてきた。

有馬朗人先生は人にも物理学者でありながら、俳人でもある。著名な物理学者

者が文学や芸術に関係していることはよく知られた事実である。したがって、感性がいかに大切かは多分身をもちて感じられているにちがいない。臨床心理学が専門の河合隼雄先生は、多くの著書をあらわしておられるので読む機会を持たれた人も多いと思う。ユングの研究者でもあり、人間の心の問題を扱うのであるわけだが、感性というものは難しい概念ということである。確かに分かっているようで分からない言葉である。感性という言葉は芸術家についてよく使われるが、工学とはどんな連関を持つのかこのテーマが取り上げられたのはそれが問題だからである。

哲学や心理学では感性の定義がある。ここではそんな定義から離れて考えてみたい。

一般に感性という言葉は「豊かな感性」「鋭い感性」「感性を磨く」「研ぎすませた感性」というように使われる。この用法から分かることは感性にはさまざまな種類があり、したがって子供でも他の人から眺めると豊かな感性を持つていてと感ぜられる場合がある。感性は感受性であり、外界のさまざまなものに深く、敏感に感じる能力と解される。色々なものに感じ得る能力である。道を極めた人に対し感性豊かな表現力と

一世紀に向けて個人個人の感性を磨くことは教育の原点のように思われる。では他の学問の分野は如何だろうか。工学としてはなぜ今なのか。

科学技術が進み、工学は人間の創り出すものの多くに関係している。特に巨大科学技術、先端技術は工学が深くかかわっている。設計、製造、検査、運転等全ての面で従事する個人個人に鋭い感性が要求される。

吉川弘之先生は、専門が一般設計学であり、設計過程の多くの部分を計算機に移植できるとしながらも、なお人間の能力の全てを計算機に代用させることに困難を認めておられる。だからこそ感性に依る部分と考えるのである。感性とは総合力の結果豊かになるものなのである。発想、創造力の原点でもある。

黒田玲子先生は、英国での十二年にわたる研究歴をお持ちで外国での研究から感性にせまっていた。先生の研究は分子認識であり、生命科学の非対称性による分子の認識である。右型左型の分子の存在が悲劇を起こすことなど研究生活の上での感性の必要がある。

来学いただくことになっており、国際色も豊かで、盛大な祝賀会が期待される。

また当日は、午前10時から記念事業の報告会が、スチューデントセンターを会場に行われる。事業の報告（中間報告）、特に記念事業委員会第二部会が企画実施してきた体育・文化行事の講評と表彰、記念歌の発表等が予定されている。同時に、午前中は、学内の施設・設備の公開も行うことになっている。

◎学園創立九十周年祝賀会 海外協定校の賓客も

学園は、十一月九日（日）正午より、本学体育館において創立九十周年の祝賀会を挙げる。

当日は、学内関係者を始めとし、海外協定締結校、全国工業高等学校長協会・東京私立工業高等学校長会の先生方、地元宮代町、大学・高校・中学の外郭団体の方々、記念事業募金にご

学園創立90周年記念事業《国際シンポジウム》 「感性と工学」をテーマに開催！ 世界的権威の5氏が集う



有馬 朗人氏



吉川 弘之氏



河合 隼雄氏



W・M・ボナー氏



黒田 玲子氏

＊日時＊平成十年二月二十四日（火）午後一時～五時
＊会場＊東京国際フォーラム（ホールC）
＊参加料＊無料
◆基調講演「日本人と感性」
有馬朗人／「工学と発想」
吉川弘之／「世界の工学教育における諸問題」W・M・ボナー
◆パネル討論「感性と工学をめぐって」
◇パネリスト◇河合隼雄／黒田玲子／および基調講演者の三氏が参加

後援 日本学術会議／科学技術庁／文部省／通商産業省／日本工学会（93学協）／日本工学教育協会／国立高等専門学校学校校長

吉川弘之 日本学術会議会長。第二十五代東京大学総長。一九三三年生まれ。バミンガム大学客員研究員、ノルウェー工科大学客員教授を歴任。OECD科学技術政策委員会日本代表。日本工学教育協会会長等の要職も。九七年「ロボット産業の創設と全地球的技術パラダイムの創出」で日本国際賞を受賞。

河合隼雄 国際日本文化研究センター所長。京都大学名誉教授。一九二八年生まれ。チューリッヒのユング研究所に学び、日本人初にユング派精神分析家の資格を取得。八二年「昔話と日本人の心」で大佛次郎賞。八八年「明恵 夢を生きる」で新潮学芸賞を受賞するなど著書多数。中央教育審議会委員の一人。W・M・ボナー イリノイ州立大学教授。一九三

七年生まれ。六三年ミュンヘン工科大学卒業後ペンシルバニア大学留学。八六年から八七年にかけ、日本、中国、ノルウェー、ドイツなどで研究に従事。いま広帯域干渉型センシングの全地球的環境モニタリング応用院総合文化研究科教授。お茶の水女子大学理学部卒。ロンドン大学、英国王立ガロン研究所などで研究生活。九二年東京大学教養学部教授に就任。九三年「非対称な分子の左右とDNA塩基配列の識別のしくみ」で猿橋賞受賞。大学審議会委員。（敬称略）

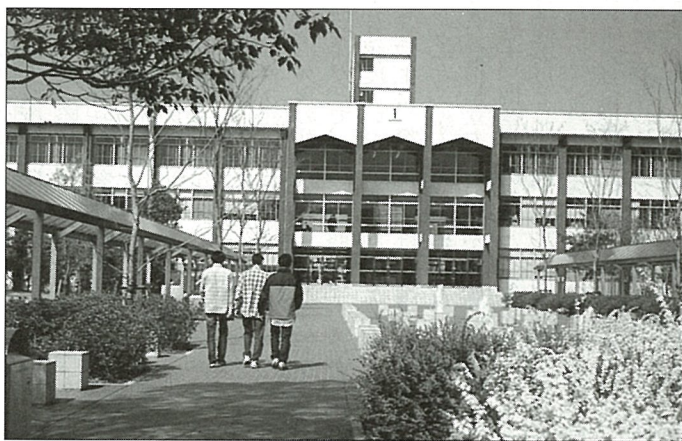
協力をお願いした企業、学生徒の代表者等を御招待し、約千名の参加を得て開催する予定となっている。

祝賀会は、理事長の挨拶、特別招待者のご紹介、鏡開きの後、附属の高校生徒製作による「合樹」の乾杯という次第で進行することとなっている。中国、台湾、タイの各学術協定校から

即戦力のエンジニアを育成する 工業高校生の学園

学部	募集人員	願書受付	試験日	合格発表
工学部	機械工学科 (200名)	1月8日	2月6日	2月15日
	情報工学科 (140名)			
	電気電子工学科 (200名)	1月31日	2月7日	
	建築学科 (200名)		2月8日	
	システム工学科 (160名)			

●お問い合わせは●日本工業大学 教務課入試係
〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 ☎0480-33-7507(直)



平成10年度一般入試

平成8年度資金収支計算書			
平成8年4月1日から平成9年3月31日まで		(単位:円)	
収入の部	金額	支出の部	金額
学生納付金収入 授業料収入 入学金収入 実験研究費収入 施設設備拡充費収入 教材費収入	4,036,940,300 281,500,000 477,474,000 1,094,580,500 830,000	人件費支出 教育研究経費支出 管理経費支出 借入金等利息支出 借入金等返済支出	2,826,331,838 1,433,546,891 255,654,788 202,142,266 262,180,000
手数料収入 寄付金収入 補助金収入 資産運用収入 事業収入 雑収入 借入金等収入 前受金収入 その他の収入	107,449,100 187,369,976 906,558,200 42,982,102 27,183,187 90,689,627 2,100,000,000 2,598,131,350 1,509,853,258	施設関係支出 設備関係支出 その他の支出 未払金 退職給付引当特定資産繰入 施設引当特定資産繰入 育英基金特定資産繰入 設備引当特定資産繰入 第3号基本金引当資産繰入 その他	3,946,152,051 1,190,984,353 462,216,448 64,561,531 6,838,466 10,615,437 4,207,392 50,899,703 35,769,588 289,324,331
資金収入調整勘定 前期末前受金控除 期末未収入金控除	△2,337,601,250 △279,629,250	資金支出調整勘定	△772,201,310
前年度繰越支払資金	3,768,897,657	次期繰越資金	4,806,201,432
収入の部合計	14,613,208,757	支出の部合計	14,613,208,757

平成9年度 資金収支予算書			
平成9年4月1日から平成10年3月31日まで		(単位:円)	
収入の部	金額	支出の部	金額
学生納付金収入 授業料収入 入学金収入 実験研究費収入 施設設備拡充費収入 教材費収入	4,228,936,000 276,252,000 488,957,000 1,127,018,000 720,000	人件費支出 教育研究費支出 管理経費支出 借入金等利息支出 借入金等返済支出	2,929,903,000 1,410,482,259 344,593,200 240,362,000 290,640,000
手数料収入 寄付金収入 補助金収入 資産運用収入 事業収入 雑収入 借入金等収入 前受金収入 その他の収入	96,300,000 401,190,000 622,287,500 34,000,000 33,300,000 42,755,000 2,598,089,050 539,836,758	施設関係支出 設備関係支出 その他の支出 未払金 退職給付引当特定資産繰入 施設引当特定資産繰入 育英基金特定資産繰入 設備引当特定資産繰入 第3号基本金引当資産繰入 その他	759,516,512 679,118,205 2,047,101,013 772,201,310 6,100,000 608,196,510 6,000,000 166,100,000 35,000,000 453,503,193
資金収入調整勘定 前期末前受金控除	△2,598,131,350	予備費 資金支出調整勘定	80,000,000 △658,194
前年度繰越支払資金	4,806,201,432	次期繰越資金	3,916,653,395
収入の部合計	12,697,711,390	支出の部合計	12,697,711,390

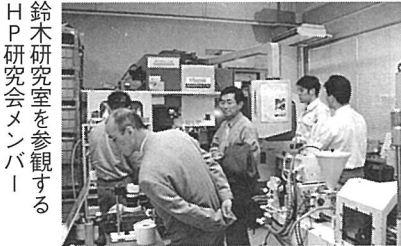
貸借対照表			
平成9年3月31日現在		(単位:円)	
資産の部	金額	負債・基本金及び消費収支差額の部	金額
資産の部		負債の部	
固定資産		固定負債	
土地	1,942,135,355	長期借入金	5,558,100,000
建物	13,180,372,407	退職給付引当金	1,303,418,734
構築物	1,477,675,681	流動負債	
教育研究用機器備品	4,700,300,469	短期借入金	290,640,000
その他の機器備品	103,299,781	未払金	772,201,310
図書	1,068,610,574	仮受金	1,064,500
車両	5,341,758	前受金	2,598,131,350
建設仮勘定	328,746,100	預り金	122,917,693
その他の固定資産		基本金の部	
電話加入権	2,375,948	第1号基本金	25,209,467,814
有価証券	450,451	第3号基本金	457,168,796
差入保証金	667,700	第4号基本金	427,938,664
退職給付引当特定資産	645,518,216		
施設引当特定資産	965,750,848		
設備引当特定資産	215,540,829		
育英基金引当特定資産	27,786,584		
第3号基本金引当資産	457,168,796		
流動資産		消費収支差額の部	
現預金	4,088,736,222		△6,479,370,980
法人勘定	717,465,210		
未収入金	279,629,250		
前払金	658,194		
仮払金	53,447,508		
資産の部合計	30,261,677,881	負債・基本金及び消費収支差額の部合計	30,261,677,881

システム工学専攻の大学院生の清水豊彦君が埼玉県プレ・インキュベータ設置事業に応募し、選考の結果みごと研究生として認定された。この制度は、埼玉県が県内における産業の分野開拓の推進や学生等の新規事業への挑戦意欲の醸成を目的として行っているもので、研究開発費の補助、研究環境を提供するものである。今年はこの制度を始めて二年目にあたり、五件が認定された。

提案したテーマは「ビデオファイル検索システムの開発」である。インターネット、マルチメディアが進んだ時代には、ビデオファイルの検索が大切になると思われる。そこで、卒業研究で行ったシーン変化の抽出を基礎に、シーンの検索アルゴリズムを開発し、実用的ビデオファイル検索システムを実現する計画である。

この埼玉県プレ・インキュベータ設置事業は、星野研究室に設置された。星野研究室では、よりよい情報システムを求めて、をモットーに高画質な画像出力技術、画像処理技術の研究を進めている。このビデオ関連のテーマは、研究室にとって新しい研究領域を拡大するものである。積極的に取り組み本技術が埼玉県の企業から市販され、ゆくゆくはいくつかの起業家の芽と共に企業を起すことが期待される。

将来の夢は、日本工業大学で研究開発された技術、および本学の卒業生や教職員が中心となり、日本工業大学を中心とした企業群ができ、県の産業とともに大活躍も活性化されることである。



（社法）精密工学会（会員約一万人）には、産学共同研究協力分科会と関係の深い久喜のサン精密化工研究所などで、その数二十五社程度といったところである。また、参加企業をバックアップするため、東海大、富山県立大、金沢大、千葉大、関西大等の教授に学側委員として参加していただいている。

HP研究会が発足以来既に六回の会合が行われた。各回とも学側および企業側委員よりの最先端技術に関する興味深い研究発表と、会場となる企業の工場や新製品を見学させていただいているが、異分野、異企業の見学は好評を博している。また、第六回目の会合は先月（九月一日）本学で開催されたが、三宅教授らによる超硬質薄膜とそのトライボロジー特性に関する研究発表に先がけ、大川理事長による「工学と感性」についての講演を戴き、参加者から活発な質問がなされた。会議後、学内研究施設の見学に続いて、ピザアトレビで懇親会が開かれたが、これにも全員（四十五名）が参加し、盛大なものとなった。

HP研究会は十月より二期目に入ったが、景気低迷期にもかかわらず参加企業は五社ほど増えており、超難加工材に対して日本企業が積極的に取り組んでいることがわかる。

米国の例を持ち出すまでもなく、産と学とが協力して新しい技術を開発・発展させて行くことが、日本の製造業を支える基盤になるものと思われる。

（社法）精密工学会（会員約一万人）には、産学共同研究協力分科会と関係の深い久喜のサン精密化工研究所などで、その数二十五社程度といったところである。また、参加企業をバックアップするため、東海大、富山県立大、金沢大、千葉大、関西大等の教授に学側委員として参加していただいている。

HP研究会が発足以来既に六回の会合が行われた。各回とも学側および企業側委員よりの最先端技術に関する興味深い研究発表と、会場となる企業の工場や新製品を見学させていただいているが、異分野、異企業の見学は好評を博している。また、第六回目の会合は先月（九月一日）本学で開催されたが、三宅教授らによる超硬質薄膜とそのトライボロジー特性に関する研究発表に先がけ、大川理事長による「工学と感性」についての講演を戴き、参加者から活発な質問がなされた。会議後、学内研究施設の見学に続いて、ピザアトレビで懇親会が開かれたが、これにも全員（四十五名）が参加し、盛大なものとなった。

（社法）精密工学会（会員約一万人）には、産学共同研究協力分科会と関係の深い久喜のサン精密化工研究所などで、その数二十五社程度といったところである。また、参加企業をバックアップするため、東海大、富山県立大、金沢大、千葉大、関西大等の教授に学側委員として参加していただいている。

HP研究会が発足以来既に六回の会合が行われた。各回とも学側および企業側委員よりの最先端技術に関する興味深い研究発表と、会場となる企業の工場や新製品を見学させていただいているが、異分野、異企業の見学は好評を博している。また、第六回目の会合は先月（九月一日）本学で開催されたが、三宅教授らによる超硬質薄膜とそのトライボロジー特性に関する研究発表に先がけ、大川理事長による「工学と感性」についての講演を戴き、参加者から活発な質問がなされた。会議後、学内研究施設の見学に続いて、ピザアトレビで懇親会が開かれたが、これにも全員（四十五名）が参加し、盛大なものとなった。

第三〇期決算・第三期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されましたので、ここに財務諸表を公表し、関係各位

今後、教育研究、学生生活環境の整備改善、財政の

平成8年度決算・平成9年度予算

魅力ある大学づくりに向けて

教育研究費充実の予算編成

のご理解とご協力をお願いする次第です。

わが国の高等教育は、大きな変革期を迎え、量より質への転換が求められています。学問の急速な進歩、国際化は世界の中のが国の大学としての対応をも要請しています。このことは本学にとっても例外ではなく国際化の対応とともに十八歳人口の減少、少子化ともなう定員割れ等、大学冬の時代到来に対して、教育の高度化、個性化、特色化を図り、魅力ある大学にしていかなばなりません。

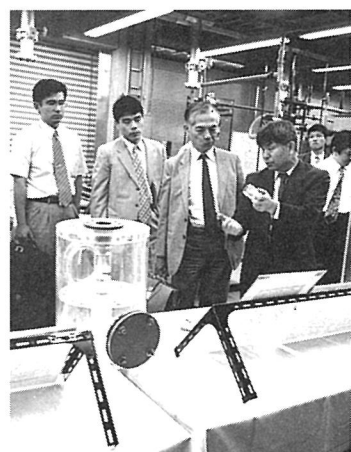
これらの課題に対して、本学では様々な大学改革に取り組んでいます。例えばカリキュラムの改革、授業計画（シラバス）の作成、科目等履修生の受入れ、大学院の充実、産学協同の促進、大学の自己点検・評価等への取り組みです。

●平成八年度決算について
教育研究活動の充実と活性化をめざした教育研究経費を確保し、円滑なる学生教育と研究活動を支えました。そして新たな施設として、機械工学科実験研究棟・機械工作センター（総工事費約三十一億円）が建設され、学園創立九十周年記念事業のスチューデントセンター（総工事費四億円）が着工されました。一方、施設の改善や設備の充実にも配慮し、本館改修工事、ガス本管敷設工事等の予算が執行され、教育研究用機器備品として、マルチプラットフォーム、EWSシステムパソコン

見直しに努め魅力ある大学作り鋭意努力していく所存です。ご父母の皆様はじめ、卒業生、教職員、学校関係者の皆様のますますのお力添えをいただき、さらに発展させて参りたいと考えております。

●平成九年度予算について
特別研究費、大学院予算については、補助対象となるような研究に対して重点配分をする等、教育研究費のより一層の充実が図られました。主たる施設・設備計画は、継続事業となつていくスチューデントセンター工事、旧機械工作センター、本館、W1棟等の改修工事、イントラネット対応型情報技術教育システム等の導入が予定されています。

●財務諸表について
平成八年度の全ての収支を表示する資金収支計算書期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表、平成九年度資金収支予算書は別表の通りです。



精錬フォーラムセミナー(7月18日)で研究室を案内する横谷教授

「機械工学科・横谷研究室」
阪大先端研にて共同研究に着手
斬新な着想を工業化に向けて

鉄鋼業は戦後の日本躍進の原動力となったが、高度成長の終焉と発展途上国の追い上げ、鋼材の高品質化に対する要求、環境問題に對する配慮から、省エネルギーで高品質の鉄を生む製鋼プロセスの開発を迫られるようになった。

素を占める連続鑄造機において、品質の成否は如何に巧妙に鑄造内流動を制御するかに懸つてゐる。当研究室（流体工学）では従来の制御方法と異なる、ノズル内に旋回流を適用した、まったく新しい制御方法を開発した。この結果、著しく鑄型内流動および熱輸送制御に優れ、その成果は、国家プロジェクトや精錬フォーラム幹事会等を通じて、メーカーの熱い注目を浴びている。この度のプロジェクトは住友金属工業、阪大教授九州耐火レンガ、当研究室から構成されており、本学で開発した各種着想を基盤に鉄鋼プロセスのみならず、励賞（一九九七年五月十六日）／受賞論文「一般化位相シフト法によるき裂先端光弾性縞の抽出」

梅崎栄作助教授

(機械工学科)

相次ぐ論文受賞

【内容】
本論文は、雑音に強い一般化位相シフト法等高線作図法を併用して、光弾性縞を抽出する方法を考案し、光弾性縞から応力拡大係数を測定するのに適用した。本法は、従来の光弾性縞画像処理による縞ループ抽出法とは、考え方が大幅に異なっており、整数次や半数次の等色線縞が一本も得られないような場合に対して必要な数の縞ループを得ることが可能になった。したがって、本法によれば、多数の縞を生じせるために、試料に過大な負荷を与える必要がなくなり、実験破壊検査分野にとどまらず、光弾性学や破壊力学の分野にも貢献することが期待される。

○日本光弾性学会 論文賞（一九九七年六月十八日）
受賞論文「コースティックス法及び光弾性法による混合モード荷重下における応力拡大係数の算定」およびその他関連論文

【内容】
本論文は、エンジニアリング・プラスチックとしてその利用範囲をますます広げている高分子材料の破壊強度の評価試験（混合モード負荷試験）を簡略化するために必要な負荷治具を開発し、強度評価に必要な応力拡大係数をコーティックス法はKI/KIIが小さい範囲で有効であるが、光弾性法はKI/KIIの全範囲で有効であることが確かめられた。本論文の結果は、光弾性学の分野にとどまらず、今後の高分子材料の強度評価に大きく貢献すると考えられる。

建築
コンペ

応募作品360点 史上最高に!!

第11回 日本工業大学建築設計競技入選者

奨励賞

秋田県立大曲工業高等学校
埼玉県立大宮工業高等学校
埼玉県立春日部工業高等学校
神奈川県立神奈川工業高等学校
京都府立宮津高等学校
岡山県立津山工業高等学校

準佳作

愛知県立半田工業高等学校
兵庫県立龍野実業高等学校
群馬県立桐生工業高等学校
兵庫県立龍野実業高等学校
安田学園高等学校
兵庫県立龍野実業高等学校
静岡県立静岡工業高等学校
静岡県立静岡工業高等学校
青森県立弘前工業高等学校
静岡県立静岡工業高等学校
岡山県立水島工業高等学校
秋田県立由利工業高等学校
群馬県立桐生工業高等学校

一 等 作
二 等 作
三 等 作

飯塚 徹也 美子 藤田 哲也 眞理 赤澤 眞理 甘川 眞理 石川 眞理 奥住 眞理 片山 眞理 高松 眞理 濱田 眞理 林田 眞理 松田 眞理 森田 眞理 中川 眞理 関口 眞理 梶原 眞理 稲生 眞理 橋本 眞理 利昌 眞理 康昭 眞理 亨昭 眞理 田中 眞理 寺田 眞理 十時 眞理 奈良 眞理 原良 眞理 外尾 眞理 堀中 眞理 山田 眞理

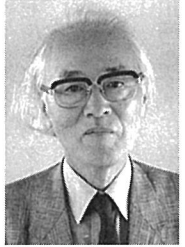
(敬称略)

日本工業大学建築設計競技は、今年で十一回になる。今回は、応募が従前に比べて最も多かった。審査委員の先生方と事務担当は、平成九年一月に決まり、その頃から、課題の検討に入り、平成九年二月上旬に課題は決定した。課題は、「ホビー・ハウス 趣味を楽しむ住宅」と決まり、応募要項とポスターを日本全国の工業高等学校へ、四月からの授業に間に合うように三月上旬に発送した。工業高等学校では、四月からの課題にとり入れる工夫と、夏休みに頑張る工夫があるようだ。高校生には難しい課題のようだったが、八月三十一日消印の図面が九月に入ってから続々と届いた。応募図面を整理した結果、八十二校、三百六十点の応募をいただいた。今までに、選外佳作十三点を加えることとなった。また、恒例の奨励賞を、多数応募校六校に、贈ることとした。指導にあられた先生方、暑いさなか奮闘された応募者の熱意に、改めて敬意を表します。惜しくも入選されなかった方も、この設計競技参加を契機に、これからも大いに精進されることを願っています。

文責：事務局 佐藤勝行

コンペの選を終えて思うこと

宮坂 修吉 文夫教授



本学のコンペの応募者は年々増えて、今年は三六〇点となった。それと同時に年々作品のプレゼンテーションがよくなってきて、アイデアの表現、コンセプトの内容、レイアウト等が上手になってきた。それらの作品を審査して甲乙をつけるという作業はなかなかむずかしく、技術を要する。それらの点についての選後評は本学発行の作品集にのせた通りであるが、その後に作品を見直して感じる点を二、三のべてみる。なるほど作品は立派に出てきているが、よくみていくと何だかという感じがいくつある。応募者はこれらの点をクリヤーした上でよい作品をつくってほしい。まず構造的にいて、それが可能かどうかという点がある。ラーメンで設計しているのや、壁で設計しているのや、壁で設計して突然柱が立ってたりする。これは地震の時にまず被害にあう。階段を設計して踏み板の数が足りないもの、あまっでしまふものは困る。また二階建ての建物で一階で上りとなっている階段が二階でも上りを書いてあるのはいきなり。木造で屋根をフラットにし、その上に土をのせて家庭園芸をやるという設計がよくある。木造のフラットでは防水もできないし雨漏りの原因となり、さらに土をのせるのは困る。よく注意して設計してほしい。



生活感の多様さに教えられる

渡辺 勝彦教授



人々の趣味は、実にさまざまである。自分の住まいでできるものも、たくさんある。今回の設計競技の課題は「ホビー・ハウス 趣味を楽しむ住宅」である。趣味を楽しむ住宅を一言で表現する、適切な言葉が難しい。「ホビー・ハウス」という英語はないので、言葉の大事にする方からは何か言われそうである。でも、趣旨の説明があれば、何とか意味は通じると、英語を

母国語とする方が言ってくださった。ここでは、趣味の例を多く示した。挙げた例は、次の通りである。

- ①小説を書いたり、読んだり
- ②絵を描いたり、見たり
- ③書をたしなんだり
- ④お茶を点てたり
- ⑤料理をつくりたり、皆で食べたり
- ⑥CDを聴いたり、音を奏でたり
- ⑦模型をつくりたり、遊んだり
- ⑧日曜大工を楽しんだり
- ⑨花を育てたり、生けたり
- ⑩インターネットを楽しんだり

高校生離れした技量を感じる

桑原 文夫教授



今年のテーマの「趣味」と与えられた条件である「相当急な斜面」を共に生かした設計はかなり難しかったようである。この斜面には二通りの対処の仕方がある。ひとつは斜面を大きく掘削するか、または清水の舞台のような架構を作って、とにかくかまわず平地を作ってしまう方法である。もう一つはこの斜面の形状をできるだけ利用した計画をするものである。ある。審査員としては当然後者に軍配を上げた。この観点から、映像や音楽の観客席とした飯塚君、藤田君、高松君、林君、水辺へのアプローチとした赤澤君、石川君、奥住君、浜田君、風の通り道とした大田君、原田君の作品が斜面を積極的に利用したものとして評価される。また、甘川君、片山君、松森君の作品もアイデア、技量共にすばらしい。斜面そのものは居室に向かないので、平地を作り出すために、擁壁で背後の土の圧力（土圧）を支える。そのときに、この壁を一寸たりとも動かすまいとする

と、大変な力が必要となる（これを静止土圧という）。しかし、背後の土が崩れ出るときの土圧は静止土圧より小さくなるので、この土圧を採用すれば、設計がかなり楽になる。ただし、擁壁がほんのわずかな前方に動くことを許すならばである。土の斜面への対峙方として、このように力づくではないやり方を知っておくと参考になる。問題の斜面上の敷地の場合には水平な床面をいくつか作り、それらを階段でつなぐことが必要とされる。この計画上の技術は決してやさしいものではなく、いずれの作品にも高校生離れした技量を感じた。

兵庫県南部地震に関する 本学の調査研究まとめ



北後寿教授（写真）を中心に取り組んできた建築学科の阪神・淡路大地震に関する研究報告がまとまり、関係諸団体に配布された。報告書は「阪神・淡路を忘れない、日本工業大学／一九九五年兵庫県南部地震の調査研究（1）」と題するもので、章立ては、左記の項にわたっている。

- ①一九九五年一月十七日
- ②日本工業大学の調査活動
- ③兵庫県南部地震概説
- ④関連学会における活動
- ⑤近年発生した世界の都市災害と神戸大地震

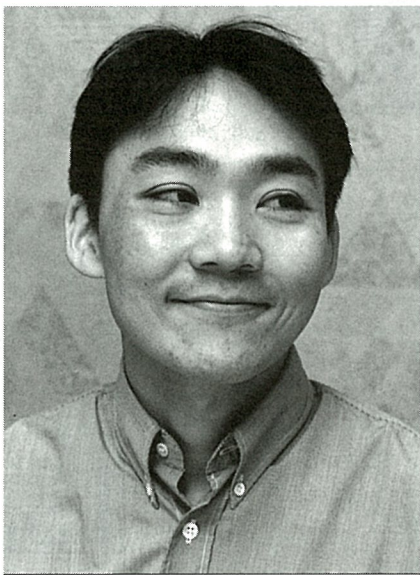
この内容から推察できるように、本報告書はドキュメント性も色濃く内包しており、その意味で単に建築関係者のみにとどまらず、社会的にも、たいへん貴重な資料として有用性をもっている。ご入用の向きは、本学教務部教務課までご連絡のほどを。

また、北後教授が自費出版された「異国の都市文化を垣間見る」（写真左、A5判二三八ページ）にも、同教授がトルコ、メキシコなどの地震災害を視察した際の状況が、随所にちりばめられている。こちらをご購読されたい方は、直接、同教授までご連絡されたい。

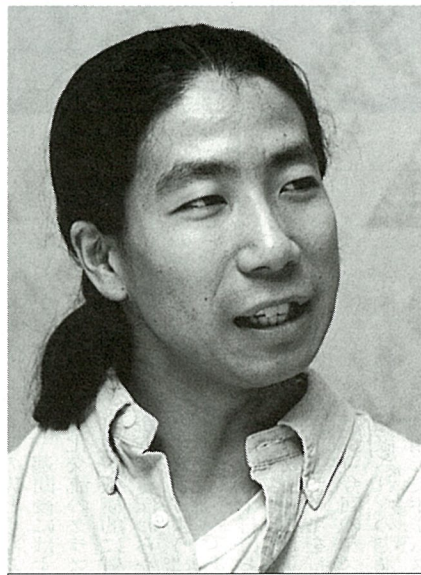


母校の

☆OB☆ 特別座談会



須釜 康之さん
曙ブレーキ(株)勤務
(システム工学科卒業)



乙黒 満さん
(株)エピキュラス勤務
(大学院電気工学専攻修了)

学園創立九十周年も、この学園祭や祝賀会を迎えて、いよいよクライマックスの段階に入りました。
そこで私は、この機会に大学教職員の皆さん方や学生諸君に、ぜひ熟慮してほしいことがらは、後援会の皆様、学園関係者や団体各位、さらにはOB諸氏に多大なご力を添えを賜って、ここまで整備が成った教育環境に、全知全能を傾けて「魂」を入れてほしい、という点であります。

あるいは学園生活面におけるサービス施設からにじみ出るような「内面的な美」……言い換えれば、心のゆたかな人びとが兼ね備えておられるようなあの「品位」とでもいべきものに、今後はぜひ眼差しを傾けて頂きたいのです。
ちなみに私は、職務がら、これまで数多くの内外の大学を参観。いまでも折につけて、未見の大学のキャンパスの空気にふれております。そして、

品位のある 大学づくりを



大川 陽康
理事長

「魂」とは、指摘するまでもなく、第一に旺盛な学習意欲の高揚や研究の、より質の高い取り組みや成果。そして、それらのことがらの一つひとつが、従前にくらべて確実に具現化されること、とりまなおさず二十一世紀という新しい時代にふさわしい大学像の形成に寄与。ひいては、時代変化がどうあろうと、先輩達が心血を注いで築き上げてこられた伝統ある私たち学園を、より強固なものにするであろうことは、疑いなく道筋であります。

それらの体験からつく感じる点は、いわゆる表向きの施設の様相や学生達の身なりの装いはともかくとして、たいへん抽象的な物言いながら、そこはかとなく、こちらの胸中にひびくもの。俗に申し上げれば、「いい感じ」のムードの漂いがあるのです。
その感觸の由来の第一は、おそらく伝統の厚みや、よき学風がもたらすのでありましようが、あ

せん。学生諸君待望のスチューデントセンターも、使用段階に入った今日、私は、ぜひ、そこを拠点にして、第三者の方々から評価されるような「品位」のある学園の空気を創り上げてほしい、と願ってやみません。
学習で深く広い識見の素養を。また学園ライフで品位ある人格を養うことが、大学という場のあ

むろん本学においても、昨今、運動面のクラブ活動などに、多々見るべき成果が表れてまいりました。けれども、正直に言って、あと一押しの際は免れません。学生諸君待望のスチューデントセンターも、使用段階に入った今日、私は、ぜひ、そこを拠点にして、第三者の方々から評価されるような「品位」のある学園の空気を創り上げてほしい、と願ってやみません。

戸石 私の場合は、たとえば建築家の安藤忠雄さんのように、実社会の場で成

ね。つまり、非常にメジャーな方ですから、建築をやっている者なら誰でも知っているし、独学で建築を修得したという意味で、異分野のかんりの数の方にも知られた存在なわけですね。で、そういう先生をポイントと呼んでくれば、社会的にたいへん話題にもなるし、学生たちに非常なインパクトを与えることは間違いないと思うんですが、

も、昨今、運動面のクラブ活動などに、多々見るべき成果が表れてまいりました。けれども、正直に言って、あと一押しの際は免れません。学生諸君待望のスチューデントセンターも、使用段階に入った今日、私は、ぜひ、そこを拠点にして、第三者の方々から評価されるような「品位」のある学園の空気を創り上げてほしい、と願ってやみません。

戸石 私の考えは、たとえば建築家の安藤忠雄さんのように、実社会の場で成

戸石 今度、東大教授に就任された先ほどの安藤忠雄さんのケースなんかは、たいへん上手だと思

戸石 今度、東大教授に就任された先ほどの安藤忠雄さんのケースなんかは、たいへん上手だと思

とで調べたり訊ねたり致しますと、やはり文化やスポーツなどのクラブ活動が活発であったり、また地味ながらボランティア活動に力を注いでいたりしている事実に行き当たります。したがって、訪問者の心をやわらかく包む「品位」や「感じのよさ」は、そういう学園ライフの充実や、他者を思いやる積極的な活動が、学生達の自信や誇りとなって、ごく自然に学内の空気を形づくるからでしょう。

戸石 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

戸石 はい、そうですね。まあ、オープンカレッジの環境という形ですね。戸石 はい、そうですね。まあ、オープンカレッジの環境という形ですね。

戸石 はい、そうですね。まあ、オープンカレッジの環境という形ですね。

田口 僕も、語学力の必要性に関しては、いま指摘の皆さんと同様に痛感していますが、ただこればかりは、単にカリキュラムを変えてどうこうという問題よりも、基本的には、各個人がやるかやらないかに尽きることでないか、と思うんです。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 僕も、語学力の必要性に関しては、いま指摘の皆さんと同様に痛感していますが、ただこればかりは、単にカリキュラムを変えてどうこうという問題よりも、基本的には、各個人がやるかやらないかに尽きることでないか、と思うんです。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 僕も、語学力の必要性に関しては、いま指摘の皆さんと同様に痛感していますが、ただこればかりは、単にカリキュラムを変えてどうこうという問題よりも、基本的には、各個人がやるかやらないかに尽きることでないか、と思うんです。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

田口 またまた辛い意見になるんですが、どうも端から観ると、最近は大がアミューズメント化しているように思えるんですね。具体的に言えば、新しい食堂やスチューデントセンターの建設がその象徴のように見えるんですが、そういう費用を投入するのなら、むしろ、もっと研究や教育面にこそカネを使わなければならないか、と僕なんかは考えるわけですね。

生まれてくるような気がするんですね。で、それは語学に限らず、全ての学びについても言えることなんじゃないか、と思う。ですから、語学力を身につけることもさることながら、要は大学時代に、もっと幅広い勉強をしておけばよかったな、というのが偽らざる実感です。というのは、社会という所は、それこそ多様な価値観が渦巻いていて、したがって、その中で生きて行くためには、それに対応するだけの物差しや幅広い知識や教養が不可欠です。だから僕なりに言えば、カリキュラムはカリキュラムとして、もう一つ、自分の趣味なり好奇心に基づいたテーマを見つけて、取り敢えずはやってみることが必要なんじゃないか。で、そういう中から、自ずと幅のある物の見方、あるいは発想というものが

◆平成九年度 海外研修レビュー 濃密な異文化体験

「参加する」研修から 「英語力向上の」研修へ

共通系——市川泰弘助教授

カナダ英語研修も今回で十四回目にあたる。そのうち十三回はプリティッシュコロムビア大学（UBC）で行ってきた。初期の目的は外国文化に触れ、外国人と親睦を深め、国際的な視野を身につけることであった。単位を認定し始めて五年目にあたる今年は四月末に第一回目の説明会を行ったあとすぐに個々のガイダンスを開始した。ガイダンスはUBCが送ってきたプログラムとホームステイに関する手引き書（英語）を読み、理解することから始まり、学生個人のホームステイ用の自己紹介シートの作成、いろいろな状況での英語表現、出入国に際して記入しなければならぬ書類（英語版）の内容とその書き方など多方面にわたるものだった。

これはカナダでの研修に入る前に多くの情報に触れ、できるかぎり学生自身で物事処理できるようにと考えた結果である。このガイダンスは二ヶ月間十二回に及ぶものとなったが、今回参加した学生（十九名）の大半がこのガイダンスに参加して事前準備をした。



UBCでのレッスン風景



UBC学生を交えてのグループ学習

その成果が出たのかという若干疑問もあるが、今年の学生は今までの中で最もよい成績を残してくれた。

研修を始める際に行ったクラス分けテスト（ヒアリングとインタビュ）でも半分近くの学生が高得点をとった。このクラス分けテストで学生は二クラスに分けられたが、上級のクラスでは通常の三倍のプリントを使って講義が続けられた。初顔合わせの時は、誰もしやべらず、私もスタッフもこの先どうなるかと心配したが、この心配も一週間後にはすっかり消えてしまった。異文化交流のクラスが行われた際、ほとんどの学生が積極的な質問をし、また表現したことがうまく伝わらないと別の表現を用いて聞き直すというように、おおよそ沈黙と一言がなかったたのである。特に感心したのは研修が始まって十日ほど経ったときにバスのストライキが突然行われたときである。日本では通常ストライキを行うときは事前に公表するのだが、今回のバスのストライキは当日の朝に発表されたのである。ほとんどの学生がバスを利用してホームステ

イ先から来ていたので、この日の講義はできないのではないかと思つて教室へ行ってみると半分近くの学生が来ていたのである。実はほとんどすべての学生が休まずに講義を受けに来て、中には二時間近く歩いて来た学生もいたのである。

EUROPE 第25回ヨーロッパ研修

日本の常識は非常識？ 旅行記をW.W.W.で公開予定

団長——青木 収（情報工学科講師）

今年のヨーロッパ研修旅行は、東京→ロンドン→カイロ→ローマ→ベネチア→ミューンヘン→チューリッヒ→バルセロナ→パリ→東京を一八日間で巡るかなり強行なスケジュールの旅である。参加メンバーは各学科の精鋭



ギガのピラミッドの前で

と川面副団長、私を加えて十三名である。紙面の都合で多くのエピソードを紹介することはできないが、印象に残ったことについて紹介する。

最初の訪問国であるイギリスには、予定通り八月二七日、夕方に到着した。入国審査があるということで、「何日滞在だっけ？」とか英語で答えられるように確認し合っているところが本当に聞かれたのは数人で、おまけに英語で言っているのに通じなくて、日本語で聞かれてしまった学生もいたようだ。ちょっと拍子抜けの入国審査であった。ホテルに到着後翌日の連絡をして解散となる。数人は早速近くのPUBへ、数人は一つの部屋に集まって最初の異国の夜に乾杯であった。

翌日はお決まりの市内観光、午後は自由行動である。幾つかのグループに分かれて行動を開始した。はじめは誰か取り残されはしないかと心配であったが、そんなことはまったくなく、みんな地下鉄へと散って行った。多くの博物館、教会、フリーマーケット、アンティークショップ、有名なPUBなど思い思いにロンドン滞在を満喫したようだ。

次の訪問国はエジプトである。少々入国に手間取りカイロのホテルに着いたのは、八月三十日午前一時三十分を過ぎていた。ホテルに向かうバスの中で驚いたことは、真夜中なのに車はライトを消してかつ飛ばしている。警笛が鳴り響き、道路端には故障した車がたさんあり、さまよっているような人もたくさんいる。なんかすごいところだという印象を受けた。さすがにその日は誰も外へ出る気力も無く寝たようであった。

三十日は、カイロの一日観光である。ギザの三代ピラミッド、スフィンクスなど過去の偉大な遺産を目の当たりにし、それが朽ちかけている現状を痛く察することができた。しかし、これらの観光地には詐欺まがいで物を



ミュンヘンの有名なビアホールホフプロイハウスで

売りつけたり、バクシーシ（ほどこし）を強要したりする最悪なエジプト人が多くいて、エジプトの印象を非常に悪くしていることに心を痛めた。夜は、タクシーをチャーターしてカイロタワーに上つてみた。イギリスでは運転手に許しを得てからタクシーに乗るのと対照的に、お客が強い立場で値引き交渉ができるのがおもしろい。

また、一般のエジプト人は非常に親切で本当にいい人達であることがよく分かった。昼間の最悪なエジプト人の印象は消え去っていった。エジプトでは道路にほとんど信号がなかった。町の中心部では道幅も広く片側三車線で車が疾走し、とにかくやたらとクラクションを響かせている。そこを現地人は平気で横断するのである。日本の常識はまったく通用しない、まさに非常識の世界である。我々は添乗員氏の指導のもと、見事にエジプト道路渡り術を体得することができた。これなら第三京浜も渡れると感激であった。これ以後他の町でもこの道路横断術が威力を発揮したことは言うまでもない。

エジプトを離れた後、再びヨーロッパの国々をめぐる旅へと続くわけであるが、エジプトの印象があまりにも強すぎたせいか、他の国々はどこも日本の常識が通用しているように見えてしまった。

今回の旅行では数々の名物料理も食べることもできた。例えば、バエリア、コチニリョ・アサード、特大のラザニア、牛の脳味噌、チーズフォアデュー、本場のフランクフルト、イカスミスバゲティ、鹿肉のホワイトソース煮、生牡蠣の山盛り、各国のワインとビール、石丸シェフのお店でフルコース……とにかく色々なものを食べる機会を得ることができた。また、各国の多くの歴史的建造物（二千年を目指して修復工事を行っているものが多かった）が多少残念ではあるが、博物館に展示された多くの美術品、歴史的に貴重な品々に触れることもできるくらい真近で見ることができたことは学生諸君に強い印象として残ったことと思う。さらに、カタコンベ（地下墓地）を遠くまで見に行ったり、下水道ツアーに出かけたり、本当に貴重な体験をした学生もいて今回の旅行をより楽しいものにしてくれたことに感謝する。

なお、今回の旅行記、各国の情報等をWWWにより公開することを計画中であるので、完成後は是非閲覧を賜りたい。最後に、今回の研修の機会を与えてくださった理事長、学長両先生をはじめ大学関係者に深甚なる謝意を表したい。

■随想

環境都市フライブルクの街路

企画室——櫻井朝雄

さる八月、夏期休暇を利用してチエコのプラハ、そしてドイツはライン河流域のフライブルク、マインツ、コブレンツなどの諸都市を、ぶらり遊歩してきた。

なかでもフライブルクは、「ドイツの最高位に評される環境政策都市」として、昨今、世界から注目されているだけあって、気持ちのいい都市散歩が満喫できた。

ちなみにスイスのバーゼルに近いこの町は、人口約二十万。中心部に、十五世紀創立のフライブルク大学が位置し、その周辺にも専門学校や職業学校が多い学術都市として知られ、さらに「ドイツの生活文化の根幹を成す」（小塩節・中央大学教授 森の象徴である、あの広大な「黒い森（シュヴァルツヴァルト）」を擁すること

で知られる。そして、この都市の名を一気に高めたのは、一九九二年に国から「自然と環境の保全に貢献したドイツ連邦の首都」の指定を受けたことが契機だった。

いうまでもなく、環境政策都市の名を手中にするには、①交通対策、②エネルギー対策、③ゴミ対策、④土地利用対策にわたる総合

的かつ緻密な政策の遂行があつてのこと。しかし、ここではその中身の一々を紹介する紙幅がないので、遊歩者から見た景観的印象のみに留めるが、とにかく街路を走る車の数が少なく、また街路の端に設けられた人工疎水に清流がはしり、雰囲気にはぐさずした感じが

ない。それは、いまの流行ことばでいえば「人に優しい」とでも表現するほかないのだが、何か言葉ばかりが溢れ、思い切った施策の構築や具体化が牛歩のようにしか進展をみない、わが国のを思うと、ここまで温もりのある風情を創り上げた為政者や市民の努力に、心底、感服せざるをえなかった。

たとえば、車による来訪者に対して都市の周囲に無料の駐車場を設け、市街に入るアクセスとして、これまた無料の自転車を提供。また、一度撤去してしまった路面電車をふたたび設置し、来訪者はむろんのこと、生活者である市民も、できるだけ自転車や路面電車を利用していただくという施策を、強力に推進。その結果、人間が人間らしく暮らせる清浄な都市環境を現出させた、というわけである。

この十二月、注目の「温暖化防止京都会議」が開催される。けれども、それはそれとして、いま私たち普通の生活者が熟慮しなければならないのは、たとえばフライブルクの市民のように、多少の不便さを覚悟のうえで物事に処する姿勢ではあるまいか……。

街路の疎水を足に浸し、嬉々として遊ぶ子供達の豊かな表情が忘れられない。



柔道部 全日本理工科学生柔道優勝 大会で見事に初制覇!!

本学柔道部が、六月二十
九日(日)東京講道館で行わ
れた第三十八回全日本理工
科学生柔道優勝大会におい
て、準決勝で大阪工業大を、
さらに決勝で工学院大を破
り、堂々の初優勝を飾った。
柔道部は、近年関東理工
科大学対抗戦で3連勝中、
この全国理工科学生優勝大
会も昨年度ベスト6入りを
果たすなど好成績を挙げて
きたが、昭和四十六年の第
十二回大会以来連続して出
場している今年度の大会は、
予想をはるかに超える優勝

という快挙であった。
優勝に至るまでの成績は
次の通りである。

◇一回戦 法政大工学部三〇
◇二回戦 東洋大工学部 四〇
◇準決勝 筑波大理工系 二一〇
◇決勝 大阪工大 二一一

工学院大 二一一
大会では笠巻淳主将(A
4、大宮工、武段)を中心
に、清水重信君(E4、大



晴れの柔道部のメンバー。後列左は、監督の谷本参与。

柔道部では、九月から二
年生を中心とした新チーム
での活動となるが、より一
層の精進と活躍が期待され
ている。

笠巻 淳 主将談 お陰様
で、全国理工科で念願の優
勝を飾れました。これも部

春の東京新大学野球リー
グでみごと一部入り(二部
リーグ戦で優勝)を果たし
た野球部が、秋季リーグで
勝ち点をあげ、入れ替え
戦をすることなく、そのま
ま踏みとどまった。

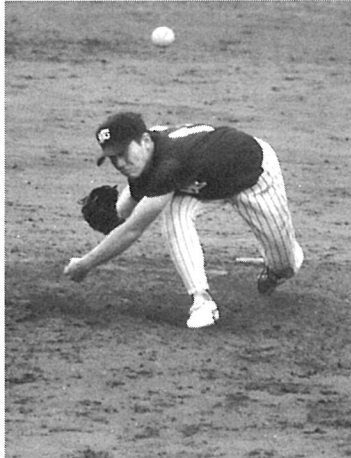
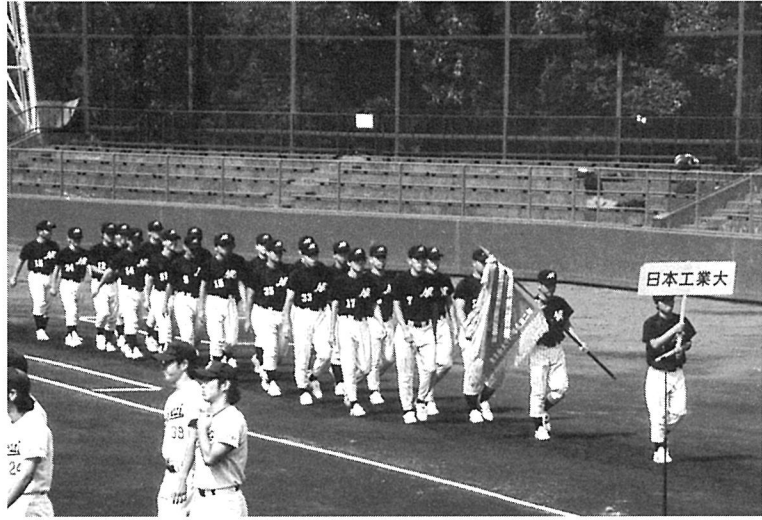
九月六日、本学野球部と
しては、初のレベルの高いリ
ーグ戦に挑む秋季開幕戦を、
駒沢球場へ観にいった。

まず、一部から四部まで
の二十一校が集った開幕式
で、わが日工大チームは、
この先、戦いを挑む創価大、
流通経済大、東京学芸大、
日大(生物資源科学部)、高
千穂商科大に次いでかろや
かな足取りで入場。本学の
クラブ活動の歴史に、花を
添えた。

開幕式後の一回戦は、東
京学芸大との試合。結果は、

野球部、一部リーグで健闘 来季は上位に行く可能性も

攻撃面のアップが最大の課題



(上) 初戦で力投する大谷君。
(左) 開幕式の日工大チーム

の各顧問大川理事長先生
を初め、柔道部OB会や大
学の関係各位のご指導の賜
と感謝いたします。今後さ
らに部員一丸となって精進
してまいりますので、ご支援
くださいますようお願いい
たします。

好投手に抑えられ、六対
〇で敗れたが、きびきび
とした試合態度で、好感
のもてる内容だった。

なお本学チームが勝ち
点をあげたのは、第二週
の日大(生物)戦。第七
週の高千穂大戦は、互い
に一勝一敗で三回戦にも
つれ込んだが、惜しくも

五対二で敗れた。また強豪
の創価大戦や流通経済大に
対して、途中まで善戦する
局面もあった。従って、オ
フシーズンの練習次第で、
来期は上位に行く可能性は
大。

野球部の諸君の、一層の
努力を期待したい。

村井 和幸主将談 はじ
めての一部での戦いに不安
があったが、皆がんばって
くれ、とても感謝していま
す。今後の課題は、とにか
く打撃練習に力を入れて、
攻撃力のアップを図ること。
来シーズンは、できれば有
望な新人生に入部してもら
って、上位を目指したいと
思っています。

情報工学科の小川君が コンテストで優秀賞に

「情報ボランティア」活
動など、意欲的に学習に取
り組んでいる情報工学科だ
も毎日大学に出てきて作品
制作に専念。今回のコンテ
ストに応募した、というの
が受賞に至る経緯。

達也君(三年)が、みごと
CQ出版社の主催する「第
二回FLEXデザインコン
テスト」のスタンダード
・クラス優秀賞を、受賞
した。

作品の前身は、FPGA
(Field Programmable Gate
Array)のロジック回路の
設計に関するもの。ちなみ
に小川君は、前期の授業で

STUDENT
face '97

小川美江さんと宮川幸
子さんは、昨年度二人し
かいなかったソフトテニス
部の女子部員である。昨秋、
今春の関東理工系大学女子
ソフトテニス大会に優勝し、
この秋三連覇に挑む。

大学に入ってから暮らし
を始めたばかりの小川さん
は入学当初提出した学生カ
ードに「趣味は洗濯」と書
いてしまいうらい退屈して
いた。そこで、高校時代に
やってたソフトテニス部
に入部することにした。ソ
フトテニスはダブルス制な
ので、女子ひとり入ったと
ころで試合はできない。だ
が、そんなことはかまわな
い、練習さえできればとい
うつもりだった。

そんな彼女を見て気にか
けていた部の先輩のところに、
アパートの下の階に引
越してきた女子学生が挨拶

く一年生の春から大会に参
加してみると、なんと結果
は三位。このときは「次は
優勝か!」ということで部
を挙げて大いに盛り上がっ
た。しかし、その後一年間
は三位のまま。共立薬科大
ペアにどうしてもかなわな
かったのだ。だが、四度目

とほとほと帰ってくる
という状態だった。

しかし、毎回優秀な成績
を収めている彼女たちに話
しかけてくる他校の部員も
いる。特に日大の生物資源
科学部の学生とは仲よくな
ず、ずっと二人だけで戦っ
てきた彼女たちだが、今年か
校の選手が敗退したあとは、
新人生が二人入って四人



小川美江さん・宮川幸子さん
(システム工学科3年)

■三連覇に挑む 仲よしペア

相手は男子選手しかいない。
ある意味ではこれは大変患
まれた環境である。いつも
男子と練習していると、い
ざ試合のときには女子の球
が遅く感じるといふ。

ずっと二人だけで戦って
きた彼女たちだが、今年か
校の選手が敗退したあとは、
新人生が二人入って四人

全面的に彼女たちの応援に
回ってくれる。この前の大
会では優勝を決めた瞬間に
涙を流して喜んでくれた。
部員のたくさんいるところ
では味わえない感動である。
初めての大会の時などは、
会場に誰も話し相手がおら
ず、二人だけで試合をし、
勝っても敗けても二人だけ
の練習をしようと思うと

移り来た。それが宮川さん
だった。軽い気持ちでソフト
テニス部に入部した宮川
さんだったが、いつしか小
川さんと同じくらい、ある
いはそれ以上にソフトテニ
スにのめり込んでゆく。

ダブルスのペアが組める
ようになったので、さっそ
の挑戦で共立薬科大を下して
初優勝を遂げた。

大会は男子と女子を別の
会場で行なう。すなわち二
人には誰も応援団がない。
初めての大会の時などは、
では味わえない感動である。
初めての大会の時などは、
会場に誰も話し相手がおら
ず、二人だけで試合をし、
勝っても敗けても二人だけ
の練習をしようと思うと

全面的に彼女たちの応援に
回ってくれる。この前の大
会では優勝を決めた瞬間に
涙を流して喜んでくれた。
部員のたくさんいるところ
では味わえない感動である。
初めての大会の時などは、
では味わえない感動である。
初めての大会の時などは、
会場に誰も話し相手がおら
ず、二人だけで試合をし、
勝っても敗けても二人だけ
の練習をしようと思うと

学園創立90周年記念「文化行事」 作品展の入賞者決まる 応募作236点の盛況!!

学園創立九十周年を記念
する文化行事の一つ、「秀麗
展」特別展の入賞者が左記
のように決まった。

ちなみに応募作品は、学
内はじめ、地域住民の方々
から寄せられた写真部門百
二十八点、絵画部門三十五
点、造型部門七十三点。そ
れぞれ力作揃いで、審査員
を大いに悩ませた。応募者
に、暑く謝意を表したい。

◆写真部門

【特選】「緊張の刻」坪井
隆成(M3)

【入選】「おばあちゃん」加
島 健次(A4)／「無題」
横澤 貴史(M4)

【佳作】「牛と木と道」寺
内 正和(大学院E1)／
橋 和代(二般)

【特選】「祈り」岡島 靖明
(A2)／「ふくろう」海老
原俊雄(二般)

◆造型部門

【特選】「織部鉢」二宮美由
紀(二般)

【入選】「Princess of
MONONOKE」長谷川
聡史(C2)／「ひより」
黒田 記子(二般)

【佳作】「織部茶碗」中村
幸子(二般)／「朝風」中
橋 和代(二般)

「もみじ」寺内 寛(E4)

◆絵画部門

【特選】「ブッチャードガー
デン」折原 平吉(二般)

【入選】「死者の奢り」田中
八重子(二般)／「無題」
佐々木多美江(二般)

$$(\mathbb{F})$$